

令和5年度卒業式告辞

告辞に先立ちまして、元旦に起こりました能登半島地震で被災された方々にお見舞いを申し上げます。

また、1日も早い復興をお祈りしたいと思います。

本日、現代生活学部267名、人間栄養学部130名が卒業を迎えます。

大学院人間生活学研究科では、修了生6名を送り出します。

創立100周年の節目の年に、卒業・修了を迎える卒業生・修了生の皆様に、本学教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

保護者の皆様、ご家族・ご親族の皆様もお喜びのことと存じます。

誠におめでとうございます。

ご来賓の皆様には、本日の卒業式にご臨席を賜り、ありがとうございます。

本日は、コロナ禍以前と同様、大勢のご来賓の皆様にはいらしていただいています。

来賓の皆様とご一緒に、この晴れの日を祝うことができますことを感謝しております。

さて、皆さんが本学に入学された2020年の春は、新型コロナウイルス感染症が急拡大し、対面での入学式はおろか、大学への通学もできなかった年でした。

誰もが初めての経験に戸惑い、対面の授業ができない中で、試行錯誤が続きました。当時私は、別の大学に所属していました。

徒歩通勤でしたので、通勤に支障がなく、学生さんのいないキャンパスに毎日通っていました。

人っ子一人いないと言ってもいいような道を歩いて職場に向かった光景が、今も時々蘇ります。

みなさんが1年生の頃は、対面の授業はほとんどできない状況でした。

友達にも会えず、思い描いていた大学生活とは程遠い日々だったことでしょう。

2年生以降は、隔週での通学や、オンライン授業、オンデマンドなど新しい形式の授業となりました。

これらの環境の変化を受け入れるのに時間がかかったでしょうし、いろいろなストレスがあったことと思います。

そして昨年度、みなさんが3年生の時、KVA祭を対面で開催できたことは、私にとっても、嬉しいことでした。

町田キャンパスの学長室の前の会議室が、実行委員の控え室でした。

本学のすべての学科から、大勢の学生さんが集い、みなさんの歓声と笑顔がキャンパスに溢れていました。

そして本日、皆さんが、大学での学びを修めて、学士、あるいは修士の学位を取得されるという、晴れの日を迎えることになり、嬉しい限りです。

さて、本学では、令和 7 年度から、町田キャンパスの 3 学科を改組して、新しい学部、「生活共創学部」をスタートさせます。

生活者の視点から、多様な人々と協働して、身近な変革を起こし、地域や社会の持続的な発展に寄与することのできる人を育てます。

家政学をベースにすることは変わりませんが、社会科学系のマネジメント領域の科目から、地域・社会の課題を解決するのに必要な多様なスキルを学んで欲しいと考えています。

新学部を紹介する初めてのオープンキャンパスが、3 月 17 日に、町田キャンパスで開催されました。

オープンキャンパスでは、学生スタッフの皆さんが、協力くださっています。

今回、卒業間近にも関わらず、何人もの 4 年生が、母校のために学生スタッフとして活躍されている姿を頼もしく思ったことでした。

新しい学部での学びには、SNS のこと、AI のこと、ドローンのような新しいテクノロジーのことなども含まれています。

工学部のような専門性の高いことまではできませんが、私たちがこれから生きていく世界、変化の速い世界での、最先端の技術を肌で感じる機会を提供しようとしています。

今回、体験授業として、ゲスト講師としてお呼びした方は、車椅子に乗った方でした。

名刺には、「ドローン パイロット」と書かれていました。

飛行機のパイロットには、お会いしたことがありますが、ドローンパイロットには初めてお会いしました。

折りたたむとペットボトルぐらいの大きさになり、重さは 800 グラムのドローンをあやつる方でした。

ドローンには、カメラが搭載されていて、写真や動画を撮ることができます。

ドローンを使えば、自分が行けない場所を「見ることができる」、

ドローンは、その方にとって特別な意味のあるものであるとおっしゃっていました。

ドローンによって、世界を広げているということですね。

考えてみれば、車椅子では、ほんの 2～3 段であっても階段は登れません。また、本学の裏手の森のような小山にも入っていくことができません。

とても楽しそうに、同時に慎重に、町田キャンパス正門のアーチの上にドローンを飛ばして、上空からの写真や動画を撮影する様子を、実際に見せてくださいました。

また、今回お聞きしたのは、寝たきりで動けない、自力で外に出ることもできない状況のお年寄りに、大きな画面で故郷の映像を見せると、普段無表情だった方が、笑顔を見せたというお話でした。

これは、福祉の現場での、最新技術の活用ですね。

ニュースでは、戦争において、ドローンを使った攻撃の話も聞きます。

最新技術をどう使うか、私たちは考える必要があります。

自然災害の脅威や武力行使による世界情勢への懸念もある中、私たちは、人々を幸せにするために、技術を使いたいものです。

この度、卒業生のみなさんは、春からは、社会人として、新しい一步を踏み出します。

期待と不安の両方を感じていらっしゃると思いますが、大丈夫です。

入学の日から、KVA 精神について学んだ皆さんが、それぞれの持ち場で責任を果たし、社会に貢献し続けて行くことを確信しています。

時には、大学に戻って、近況をお聞かせください。教職員一同、みなさんをお待ちしています。

今年度100周年を迎えた本学は、次の100年に向けて、さらなる発展を目指します。

どうぞ母校を見守ってください。

私たちも卒業生の皆さんを応援し続けます。

本日は、ご卒業、本当におめでとうございます。

令和6年3月19日 東京家政学院大学 学長 鷹野景子